

---

基本目標2 彩り豊かな文化と芸術を育むまち

---

基本目標2 彩り豊かな文化と芸術を育むまち

施策の方向1

芸術・文化を身近に感じるまちをつくります

(大分類) 14 芸術・文化

施策の方向2

文化的資産や伝統文化をまちの活性化に活かします

(大分類) 15 文化的資産

施策の方向3

暮らしの中で「まちの文化」を育みます

(大分類) 16 文化の創造

■ 施策の状況

大分類	市民意向調査結果		
	平成23年度 (%)	令和2年度 (%)	増減(ポイント)
14 芸術・文化	25.4	28.6	+3.2
15 文化的資産	26.1	22.8	-3.3
16 文化の創造	16.9	12.9	-4.0
基本目標2(施策14~16) の平均	22.8	21.4	-1.4
全施策(施策1~45) の平均	18.0	22.2	+4.2

## ■ 市民意向調査結果

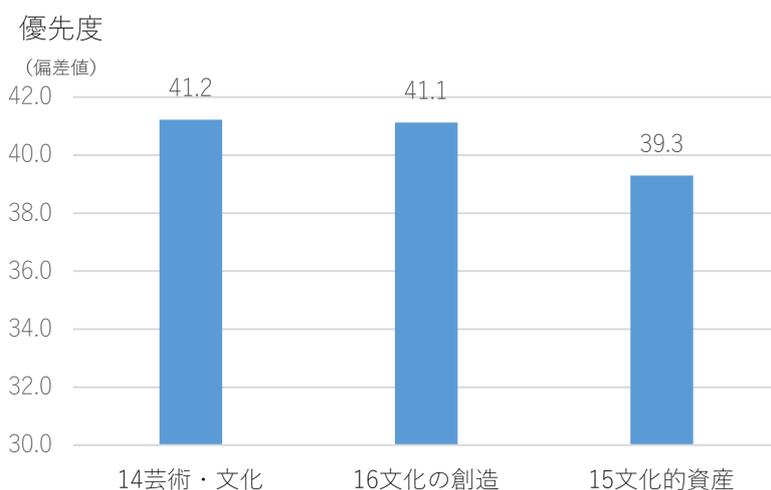
基本目標2「彩り豊かな文化と芸術を育むまち」は、文化に親しむ機会の充実、文化的資産の保全・継承、新たな文化の創出など、市民生活に潤いを与えるためのまちづくりの目標である。この10年間で、情報通信技術の急速な発展と普及に伴い、人々が世界各地の文化や芸術に容易に触れることが可能になった。一方、急加速するグローバル化の進展に伴い、国境を超えた人々の移動や異文化交流が容易になるとともに、文化的アイデンティティの損失や多様性排除の問題が顕在化している。

### 【満足度の考察】

市民満足度をみると、基本目標2の満足度平均は策定時と比較して-1.4ポイントと減少しており、全施策の平均と比較しても大幅な減少となっている。社会情勢の変化を踏まえると、市民ニーズやライフスタイルの変化、芸術・文化におけるコンテンツの多様化などが満足度に影響していることが考えられる。そのため、市民ニーズを的確に把握しつつ、多様な事業を実施していく必要がある。

施策別にみると、「14 芸術・文化」は+3.2ポイントとなっており、芸術・文化イベントの実施の市民満足度が高く、展示会等の来場者数も目標値を大きく上回っているため、市民の関心が高いことが伺える。「15 文化的資産」は-3.3ポイント、「16 文化の創造」は-4.0ポイントとなっており、文化的資産を活用した観光プロモーションや文化的資産の周知・PRの促進、新たな文化の創出で市民満足度が低くなっている。市民の関心度を高めるためにも、より効果的な市民へのPRが必要である。

### 【優先度の考察】



市民優先度をみると、基本目標2の優先度は「14 芸術・文化」が最も高く41.2、次いで「16 文化の創造」が41.1、「15 文化的資産」が39.3となっている。どの施策も40前後を推移しており、全施策の平均を下回っている。社会情勢を踏まえると、少子高齢化や新型コロナウイルス感染症など、市民

生活の基盤の揺らぎが、文化・芸術に対する優先度にも影響していることが考えられる。

施策別にみると、「15 文化的資産」では文化的資産の周知・PRの促進、「16 文化の創造」では文化に親しむ機会の充実の市民優先度が高いことが伺える。満足度と同様に、市民の関心度を高めるため、より効果的な市民へのPRが必要である。

## 14 芸術・文化



### (1) 施策をとりまく環境の変化

大阪万博の開催予定、テクノロジーと伝統文化の融合、SNS等のインターネットを利用した芸術・文化の発信など

### (2) 主要な事業の実績

【実施計画に位置付けた  
事業費の合計】  
19億7,575万1,000円

【実施計画に位置付けて推進した主な取り組み】  
○豊かな心を育む文化活動の支援  
(仮称文学館整備事業 [H23~H24]、  
「市川の文化人展」事業 [H23~R1])

### (3) 設定した目標値に対する現状の数値(代表的な指標)

指標	当初	実績	達成 状況
	(平成23年度)	(令和2年度)	
1 文化活動が活発に行われていると思う市民の割合	33.4%	33.8%	達成
2 近隣市より歴史にもとづく芸術・文化が根付いていると感じる市民の割合	31.2%	32.6%	達成
3 文化施設への来館者数	延 651,043人	延 623,530人	未達成
4 文化施設の大規模リニューアル回数	0回	1回	達成

### (4) いちかわ いろいろアプローチの10の視点に基づく取り組み事例

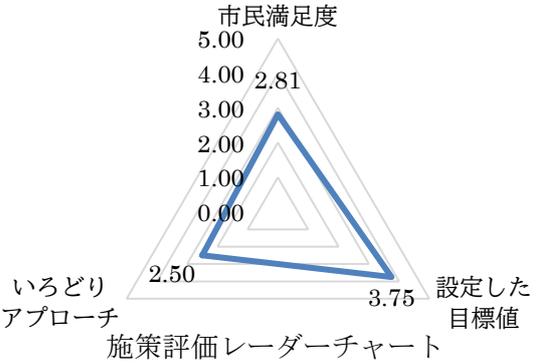
環 境	
安 全 安 心	文化施設の安全点検や修繕等の実施
エバ-サルデザイン	障がい者用駐車場の整備、文化施設のバリアフリー化
健 康	
文 化	芸術・文化に関する取り組み全般
子 育 て	文化施設の授乳室設置、子どもと親を対象としたコンサートの実施
教 育	生徒の発表の場として提供
協 働	市民文化ボランティア
地 域 経 済	
I C T	

### (5) 施策の評価と総括

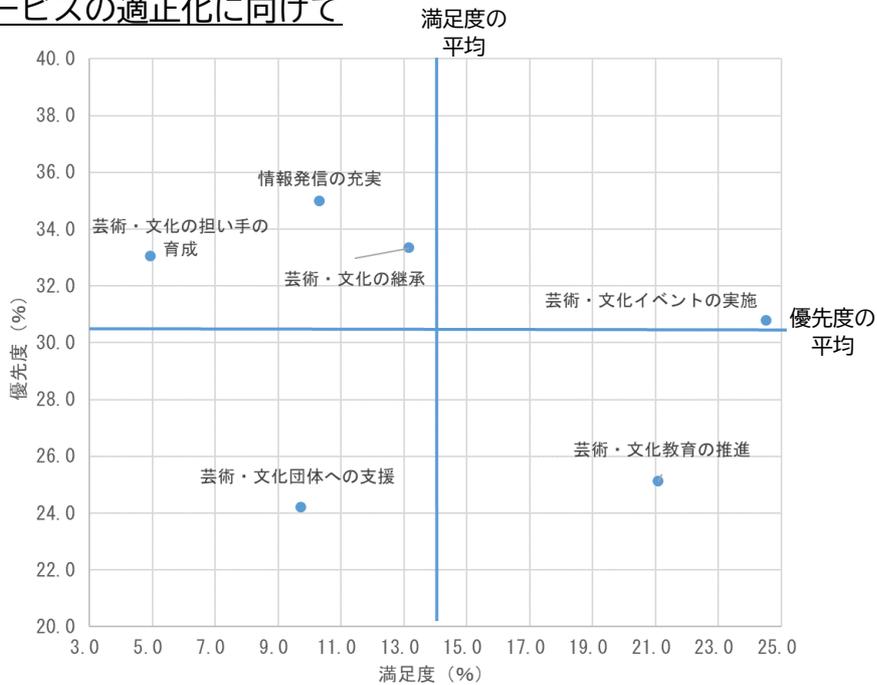
行政において、豊かな心を育む文化活動の支援などの施策を推進した結果、施策の状況における市民意向調査結果（P47）では、芸術・文化分野に満足していると回答した割合は計画策定時と比べて3.2ポイント上昇し、28.6%となった。

設定した目標値に対する現状の数値では、「近隣市より歴史にもとづく芸術・文化が根付いていると感じる」と回答した割合は約1ポイント上昇、「文化施設の大規模リニューアル回数」は1回増加するなどした。一方で「文化施設への来館者数」は延27,513人減少した。この結果、4つの指標のうち3つの指標について目標を達成した。

いちかわ いろいろアプローチでは、計画策定時は「環境」「健康」「地域経済」「ICT」を除く6つの視点に関連していたが、施策推進の結果、計画策定時と同様の6つの視点に関連する取り組みを実施することができた。



### (6) 行政サービスの適正化に向けて



取り組みの満足度×今後重点すべき取り組み（優先度）【市民意向調査結果から】

地域の芸術文化活動を取り巻く環境の変化によって、後継者育成や適切な人材の確保が困難となっている。また、趣味や娯楽の多様化、生活様式の変化による芸術・文化に対する多様なニーズへの対応が必要であり、関心を抱いてもらうきっかけの創出が難しくなっている。さらに、地域の既存団体に所属して活動することへの抵抗感や無関心が存在しており、他分野との連携による総合的な芸術文化施策の展開が必要となっている。

芸術・文化団体への支援、担い手の育成については、構成員の高齢化や新規加入者の減少による団体存続の危機などの問題があるため、サークル同士や連盟同士の横のつながりを強化するなど、芸術文化活動に参加しやすい環境を整える必要がある。また、幅広い世代、中でも若い世代が芸術・文化に興味を持ち、継続して活動できるよう、身近な学びの機会を創出するとともに、効果的な情報発信を行う必要がある。

## 15 文化的資産



▲東山魁夷記念館外観

### (1) 施策をとりまく環境の変化

文化的資産の保全への意識の高まり、世界遺産登録の増加  
災害等による歴史的文化的資産への損害、 など

### (2) 主要な事業の実績

【実施計画に位置付けた 事業費の合計】	【実施計画に位置付けて推進した主な取り組み】
4 億 7,562 万 4,000 円	○地域を彩る文化的資産の保全・活用 (市史編さん事業 [H23~H25] )

### (3) 設定した目標値に対する現状の数値（代表的な指標）

指標	当初	実績	達成 状況
	(平成 23 年度)	(令和 2 年度)	
1 文化的資産は、保存、継承、活用されていると思う市民の割合	33.8%	32.9%	未達成
2 文化的資産の名称、位置を知っている市民の割合	34.0%	21.4%	未達成
3 東山魁夷記念館への来館者数	延 29,469 人	延 20,574 人	未達成
4 東山魁夷記念館の収蔵点数	6,817 点	6,995 点	達成

### (4) いちかわ いろいろアプローチの 10 の視点に基づく取り組み事例

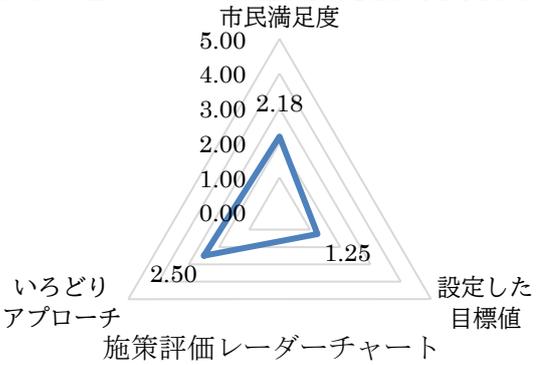
環 境	文化的資産の維持・活用による良好な住環境、まちなみ環境の保全
安 全 安 心	
エバ-カルデザイン	東山魁夷記念館などにおける障がい者用駐車場の整備
健 康	
文 化	文化的資産に関する取り組み全般
子 育 て	
教 育	文化的資産を生涯学習機会の拡大に利活用
協 働	市民サポーター（水木洋子の顕彰事業等）
地 域 経 済	街かどミュージアムの整備による地域活性化
I C T	

### (5) 施策の評価と総括

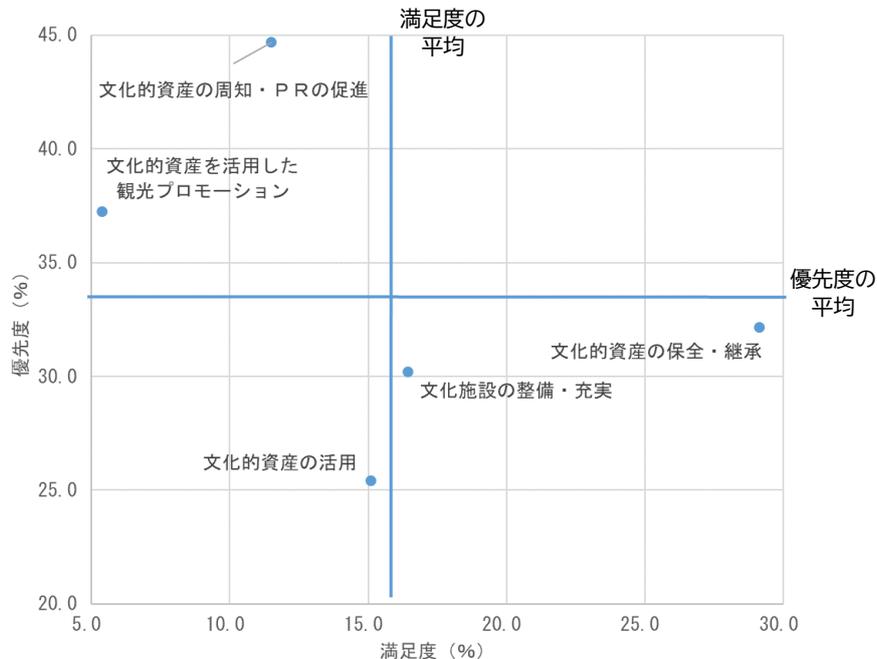
行政において、地域を彩る文化的資産の保全・活用などの施策を推進した結果、施策の状況における市民意向調査結果（P47）では、文化的資産分野に満足していると回答した割合は計画策定時と比べて3.3ポイント減少し、22.8%となった。

設定した目標値に対する現状の数値では、「東山魁夷記念館の収蔵点数」は178点増加した。一方で「文化的資産は、保存、継承、活用されていると思う」と回答した割合は約1ポイント低下、「東山魁夷記念館への来館者数」は延8,895人減少するなどした。この結果、4つの指標のうち1つの指標について目標を達成した。

いちかわ いろどりアプローチでは、計画策定時は「安全安心」「健康」「子育て」「ICT」を除く6つの視点に関連していたが、施策推進の結果、計画策定時と同様の6つの視点に関連する取り組みを実施することができた。



### (6) 行政サービスの適正化に向けて



取り組みの満足度×今後重点すべき取り組み（優先度）【市民意向調査結果から】

平成31年4月に文化財保護法の大幅な改正が行われ、未指定を含めた有形・無形文化財をまちづくりに生かしつつ、文化的資産の継承の担い手を確保し、地域における総合的な保全・継承に向けた体制づくりが進められている。また、人口減少時代を迎える中での定住人口・交流人口の増加に向け、地域の文化的資産を生かした個性豊かなまちづくりの重要性が高まり、戦略的なシテプロモーションの展開が必要になっている。

このような社会情勢を踏まえると、文化資産を活用した観光プロモーションについて優先的に取り組む必要がある。また、人口流出や世代の変化に起因する郷土史や地域の文化財などに対する関心の希薄化などが、市民のシビックプライド醸成に影響を与えていることも考えられることから、市内外への文化的資産の周知・PRが必要である。効果的・継続的に市の魅力発信や知名度向上に取り組むことが求められている。

## 16 文化の創造



### (1) 施策をとりまく環境の変化

出入国管理法の改正による外国人受け入れ拡大、  
テクノロジーを利用した新たな文化創出、  
伝統文化や祭りの担い手の減少 など

### (2) 主要な事業の実績

【実施計画に位置付けた

事業費の合計】

1 億 7,955 万 5,000 円

【実施計画に位置付けて推進した主な取り組み】

○新たな「まちの文化」の構築

(市民まつり運営費負担事業 [H23~H28] )

○新たな文化的資源の創出と情報発信

(シティセールス事業(いちかわ観光・物産案内所運営事業)  
[H23~H28] )

○多文化共生のまちづくり(国際交流推進事業 [H23~H25])

### (3) 設定した目標値に対する現状の数値(代表的な指標)

指標	当初	実績	達成 状況
	(平成 23 年度)	(令和 2 年度)	
1 新たな文化に親しみをもつ市民の割合	43.8%	27.9%	未達成
2 市民納涼花火大会の観覧者数	約 490,000 人	約 490,000 人	達成
3 市民まつりの来場者数	30,724 人	約 38,000 人	達成
4 国際交流事業への参加者数	約 3,000 人	19,820 人	達成

### (4) いちかわ いろどりアプローチの 10 の視点に基づく取り組み事例

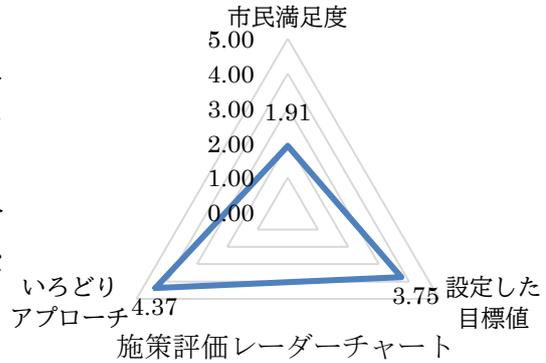
環 境	イベントにおけるゴミの分別収集の実施
安 全 安 心	多言語防災ガイドマップの作成、花火大会での警備・誘導の実施
エバ-サルデザイン	障がい者や児童の作品の発表機会の創出
健 康	
文 化	文化の創造に関する取り組み全般
子 育 て	
教 育	
協 働	NPO法人による組織運営等の人材育成、活動支援
地 域 経 済	花火大会や市民まつりがもたらす地域経済効果
I C T	We b等を活用したイベント情報などの発信

### (5) 施策の評価と総括

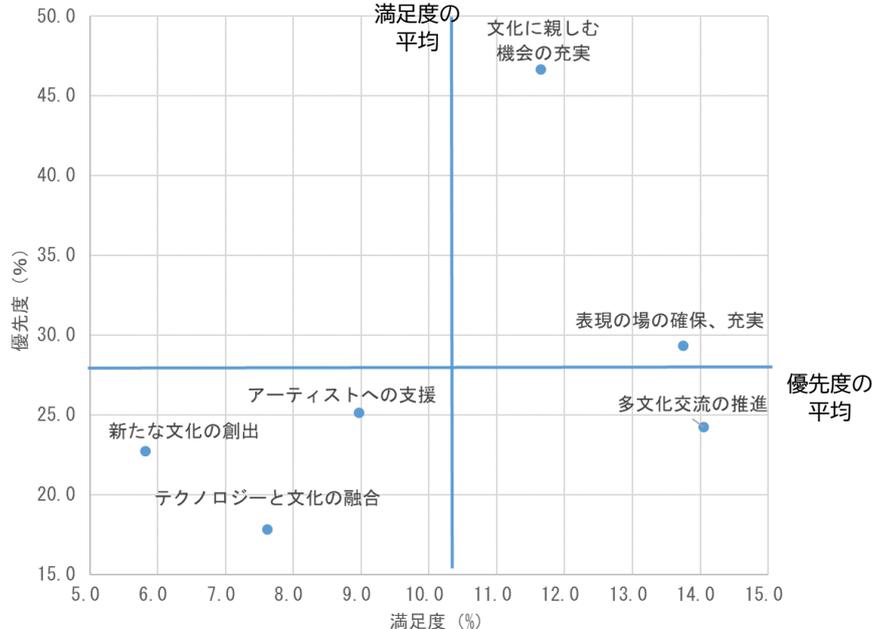
行政において、新たな「まちの文化」の構築、新たな文化的資源の創出と情報発信などの施策を推進した結果、施策の状況における市民意向調査結果（P47）では、文化の創造分野に満足していると回答した割合は計画策定時と比べて4ポイント減少し、12.9%となった。

設定した目標値に対する現状の数値では、「市民まつりの来場者数」は7,276人、「国際交流事業への参加者数」は約16,820人増加するなどした。一方で「新たな文化に親しみをもつ」と回答した割合は約16ポイント減少した。この結果、4つの指標のうち3つの指標について目標を達成した。

いちかわ いろどりアプローチでは、計画策定時は「ユニバーサルデザイン」「文化」「協働」「地域経済」の4つの視点に関連していたが、施策推進の結果、「健康」「子育て」「教育」を除く7つの視点に関連する取り組みを実施することができた。



### (6) 行政サービスの適正化に向けて



取り組みの満足度×今後重点すべき取り組み（優先度）【市民意向調査結果から】

近年、ソーシャルメディアの普及により、社会問題や社会情勢をテーマにした現代アートや、その地域に昔から残る地域固有の伝統に気軽に触れられる機会が増加している。文化や芸術は市民生活に潤いを与えることから、更に発展させ、地域の活性化につなげることが期待されている。

また、情報通信技術の発展や市民ニーズの多様化により、テクノロジーと既存の芸術・文化を掛け合わせた活動が増えている。

このような社会情勢を踏まえ、市の魅力と個性を引き出すためにも、文化に親しむ機会の充実について更に満足度の向上を目指すとともに、市内外に向けて情報発信をする取り組みが必要となる。また、市内で活動するアーティストへの支援や表現の場の確保・充実は、市民が芸術や文化に触れ、活動を周知する場に繋がるため、引き続き優先して取り組む必要がある。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、芸術・文化に触れることが難しくなる中、オンライン展示会の実施やデジタルアーカイブ化など、市民の参加促進につなげるとともに、次世代への継承を見据えた取り組みも重要である。

